



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.70 2010年1月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

環境を破壊するスポーツ “ゴルフ”

ゴルフ場で放置されてしまったゴルフボールは、自然分解されるまでに100年から1000年もかかり、その過程で有害物質をだすことがわかりました。これは、デンマークのゴルフ連盟が調べた結果です。土の上で分解されるゴルフボールからは、大量の重金属などが放出され、ボールに注入される合成ゴムからは危険なレベルの亜鉛も検出されたそうです。このボールを水中に沈めると有害物質が土壌に流れでて動植物に悪影響を与えることも確認されましたが、イギリスでは、湖をゴルフ練習場に使っていたとみられる何十万個ものボールが湖底で発見されたそうです。

ゴルフ場は、森林の伐採や芝の管理のため大量の農薬を使用するなど環境への影響が問題になっています。注目の若手ゴルファーのたちは、自分たちの“職場”が環境を破壊し続けているという現実を知っているのでしょうか。



インフルエンザに マスク・うがい薬・手指消毒は必要か

国民生活センターが、市販のウイルス対策をうたっているマスク15銘柄を調べたところ、顔とマスクの隙間から大量に空気が漏れていることがわかりました。不織布自体がウイルスを遮断できてもこの隙間からウイルスが侵入することは防げないということです。また、うがいについては、のどに付着したウイルスは20分ほどで細胞内に入り込むと言われているため、外から帰ってのうがいは効果がないとも言えます。しかし、京都大学や昭和大学などの実験では、15秒を2回、一日3回以上の水又は紅茶でうがいをする、薬剤を使ったうがいより効果があることがわかりました。『イソジン』や『ルル』などのうがい薬は、口の刺激や胃の不快感、添加物に含まれている発がん物質などの問題も多いので使用しないほうがよいでしょう。

手指消毒については、エタノール消毒が主流です。効果は確かにあるようですが、一般人が使う必要は感じません。特に子どもやアレルギーを持っている人には刺激が強く、中には過敏症の人もいて皮膚が真っ赤に腫れあがることもあります。そのようなものを学校や図書館などに平気で設置するのは無責任というものでしょう。ウイルスは皮膚から侵入できないので、外出中は、手で口や鼻を触らないこと、外食する時には洗面所でよく手を洗うこと。家に帰ったらせっけんを手を洗えばいいのです。CMにのせられて、不必要な物や、かえって害のあるものを買わないようにしましょう。

ソーセージの竹串から有害物質

フランクフルトやお団子を刺すのに使われる竹串から殺菌剤で毒性の強い「2-クロロエタノール」が検出され、この竹串を使用していた食品メーカーは、商品の自主回収を実施しました。回収を行っているのは「プリマハム」、「トーチクハム」、「伊藤ハム」の食肉3社と、和菓子製造「十勝大福本舗」。プリマハムによると、全製品の自主検査を行ったところ、串カツやアメリカンドッグなどの竹串から同物質が検出されたため、自主回収を始めたということです。この竹串は中国から輸入した竹を加工・販売したもので殺菌工程で同物質が生成されたのではないかとされています。

子どもたちが大好きなアメリカンドッグ。幼稚園の行事や露店などで人気ナンバーワンです。早く安全な国産の竹串や割り箸が使用されることが、あたりまえになるといいですね。

* 投稿「化学物質過敏症を周知する取組みをしてください」 *

「市職員に化学物質過敏症を周知する取組みをしてください」と横浜市のHPに市民からの投稿がありました。投稿者は、以前職員の方と話をしていた、香料で体調を崩したそうです。公共施設においては、体にやさしくあってほしいと訴えています。

最近では、多くの自治体のHPに化学物質過敏症のポスターが掲載されていたり、化学物質過敏症のことが議会で取り上げられたり、自治体によっては職場安全委員会での検討が始まったところもあるようです。このように、化学物質過敏症への理解を深める取組みがされはじめてきたことは嬉しいことです。

さて、この投稿者に対する横浜市の回答は、「化学物質過敏症につきましては、その症状が多様で発症の原因や治療方法に解明されていない部分が多いため、職員はこの疾病に関する正しい知識を持って市民の皆様と接する必要があると考えております。09年3月には化学物質過敏症に関する相談等を受けることが予想される職員を対象に、化学物質過敏症に関する基礎的な知識を習得させる研修を実施しております。今後は、シックハウス対策及び化学物質過敏症の職員研修を継続して実施するとともに、啓発用ポスターの掲示など化学物質過敏症の方々に配慮すべき具体的な事項の職員への啓発について、関係区局と検討を開始させていただきます」と前向きな姿勢が窺えました。皆さんの住む市町村は、どうですか。

* 子どものおもちゃにも有害物質 *

米消費者団体エコロジーセンターによると、米国内で販売されている玩具の約3割に、鉛、カドミウム、ヒ素、水銀などの有害物質が含まれていたと発表しました。

クリスマスを前に約700種の玩具を調査したところ、32%から、1種類以上の毒性のある化学物質が検出されたそうです。神経系に悪影響を与えるおそれがある鉛が高濃度に検出された玩具には、子ども向けアニメ番組「ドーラ・ジ・エクスプローラー」のキャラクターをデザインしたトートバッグやポンチョなどがあったといいます。「ドーラ・ジ・エクスプローラー」は日本でも3歳から7歳を対象にしたDVDなどがインターネットで直輸入が可能です。他にも、人気のハムスター人形の鼻先に、発がん性があるといわれているアンチモンが基準値の2倍含まれていたり、さらに42%のおもちゃからポリ塩化ビニル(PVC)が検出されたとして、同センターは心配しています。

輸入品のおもちゃを買うときには気をつけましょう。



ちょっと考えよう！

「世界には貧しい国が二つである。
一つは物質的に貧しい国インド。
もう一つはこうした問題に関心
な国日本」 マザー・テレサ



危険で子どもの成長を妨げる児童労働。世界の子どもの7人に1人が「児童労働者」と呼ばれる子どもたちだそうです。大企業の裏には、そんな児童労働が見え隠れしています。

例えば、子どもたちは、劣悪な環境でディズニーランドのグッズやマックのおもちゃ、ナイキのシューズなどを作ったり、バナナやカカオ、コーヒー豆の収穫などの労働を安い賃金で奴隷のように強いられています。また、戦争という労働にかりだされている子どもたちもいます。その背景には、貧困、教育の機会の欠如、社会的・文化的習慣などがあります。